脳血管病センター

1．スタッフ

センター長　中島 誠（特任教授）
副センター長　武笠 晃丈（教授）
副センター長　植田 光晴（教授）
副センター長　辻田 賢一（教授）
副センター長　入江 弘基（教授）

2．センターの特徴、診療・業務内容

本センターは診療・研究・教育の各領域からのアプローチによる脳血管病の克服を目的としている。対象疾患は、急性期脳卒中、診断や治療が困難な脳血管疾患、認知症や脳卒中の原因となる脳小血管病などである。

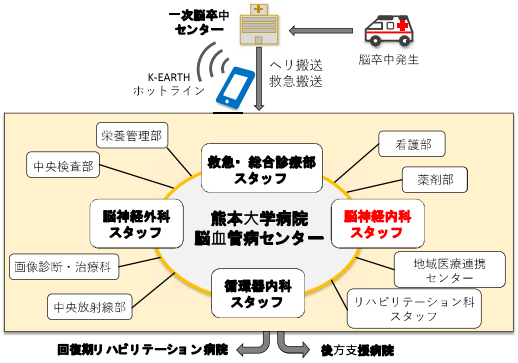
脳主幹動脈閉塞を伴う脳梗塞症例については、他の血栓回収療法施設と協力して熊本血栓回収療法地域格差解消（K-EARTH）プロジェクトのホットライン対応と、救急患者受け入れを行っている。脳血管疾患に関連した救急対応件数は、毎年 330 件前後であり、ほぼ１日１回は院内外から救急要請に応需していることになる。

脳神経外科とは、合同カンファレンスで脳卒中症例の診断・治療について検討を、循環器内科とは右左シャント性疾患や潜在性心房細動の診断や治療のため、「ブレイン・ハートチーム」としての活動を進めている。

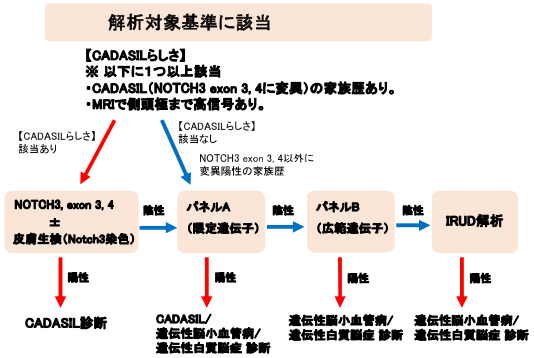
また、脳卒中・心臓病等総合支援センターの活動に積極的に参加し、多職種と協力して、特に脳領域の患者・家族支援に取り組んでいる。

3．体制

急性期脳卒中症例に対する診療体制



遺伝性脳小血管病パネル診断体制



4．活動実績

院内救急対応症例の内訳（N= 332）

1）対応疾患（初回/最終診断が脳血管疾患だったもの）

2）脳卒中・心臓病等総合支援センター事業

2022 年度に国のモデル事業として始まった脳卒中・心臓病等総合支援センターは、2023 年度から熊本県の事業となり、当院が委託を受けて活動を続けている。辻田賢一センター長が中心となり、脳血管病センターに関わる多職種スタッフが協力して、行政および心臓領域の医師・スタッフとともに様々な活動に取り組んでいる。

5．高度先進的な医療の取組

CADASIL、IV 型コラーゲン異常症などの遺伝性脳小血管病の診断においては、臨床病態解析学教室の支援も受けながら、遺伝子パネル診断と病理診断を行っている。全国の施設からの計 69 件の診断依頼に対応した。

6．臨床試験・治験の取組

熊本県内血栓回収療法の登録研究を行っている。また新たな血栓溶解薬や、抗血小板薬の効果、診療体制などに関する複数の医師主導型臨床試験にも協力している。

7．地域医療への貢献

当院は日本脳卒中学会から一次脳卒中センター・コア施設の委嘱を受けており、血栓回収療法を含め県内の脳卒中治療の拠点としての役割を担っている。また 2017 年度に始まった K-EARTH プロジェクト・ホットラインに関しては、2024 年度も多くの超急性期症例の治療適応相談や転搬送先の選定に対応した。

8．医療人教育の取組

当院は日本脳卒中学会認定研修教育施設、日本脳神経血管内治療学会研修施設として認定を受けており、それぞれの専門医育成を進めている。

9．研究活動

稀少脳卒中症例に関する学会発表や論文発表を行い、そのほか複数の研究を行っている。また脳卒中急性期リハビリテーションや、脳神経内科のアミロイドーシス・グループの協力を受け、心アミロイドーシスによる脳塞栓症に関する研究を進めている。